



【主題名】 公平な態度で
【教材名】 なおとからのしつもん
 (光村図書 小学校3年)



発行
 令和3年12月
 中部教育事務所



授業者 岸田 美弥 教諭 (須崎市立吾桑小学校) **内容項目** C-13【公正、公平、社会正義】

本時のねらい 相手によって態度を変えるなおとの姿から、不公平な態度が相手や周囲に与える影響について考えることを通して、公平に接していくために大切なことに気付かせ、誰にでも公平に接しようとする態度を育てる。

指導の要点 公平な態度で友だちに接していくためには、不公平な態度が周りの人を嫌な思いにさせるなどの周囲に与える影響を考えることが大切だと気付かせる。公平に接するために大切なことを自分の生活場面に関連付けて発問することで、自分自身との関わりで誰にでも公平に接しようとする思いを引き出す。

授業を通して引き出したい児童の考え

- ◇不公平な態度をとると、相手だけでなく周りの人も嫌な気持ちがあると分かったから、みんな同じようにしていきたい。
- ◇遊びに行くときに、みんなに声をかけるようにしているので、これからも続けていきたい。
- ◇学習リーダーで、同じ人に当ててしまうから、いろんな人に当てていきたい。
- ◇みんなに同じようにできているか、気を付けていきたい。

本時の展開	
	学習活動と主な発問 ○発問 ◆補助発問、問い返し
■導入	○人によって態度が違って嫌だなと思ったのは、どんな時だったでしょう。(事前アンケート) ・発表で当ててもらえない。 ・自分だけに厳しい。
■展開	○同じクラスの一員として、なおとくんの態度を見たらどう思う? ◆どうして嫌だと思ったの? ◆自分がされているわけじゃないのに、どうして嫌なの? ・友達が嫌な思いをしているから嫌。 ・クラスの雰囲気が悪くなるから嫌。 ○自分だったら、なおとからの質問になんと答えるかな? ・相手も周りにも嫌な気持ちになるからいけない。 ◎不公平にならないようにするにはどうすればよいだろう? ◆(アンケートから) ~のときはどうする? ◆どうしたら不公平な態度をしないでいられるかな? ・みんな同じように接する。 ・相手や周りの人の気持ちを考える。 ・人によって態度を変えていないか気を付ける。
■終末	○今日の勉強を通して、友だちに公平に接するためにどんなことを考え、どのように行動していきたいと思えますか。

指導上の工夫

- 自分自身との関わりで考えるための工夫**
導入で公平に接することが必要な場面について振り返る。公平に接するために大切なことを考える際には、導入で振り返った生活場面に関連付けながら問い返しをしていく。
- 多面的・多角的に捉えるための工夫**
同じクラスの一員としてなおとの接し方を見ていたらどう思うのか問うことで、不公平な態度が周囲に与える影響について考えさせる。
- 主題に迫るための工夫**
発問構成を工夫し、
①不公平な態度が周りの人に与える影響
②不公平な態度がいけない理由
③公平に接するために大切なことと段階的に考えられるようにする。
また、視覚的に思考の流れが分かるような構造的な板書にする。

児童による振り返り (一部抜粋)

今日の学習をして、公平にするためには、相手のことを考えることが分かりました。周りの人のことも考えていたので、これからも、人のことを考えていきたいです。

今日の学習をして、公平に接するためには、相手のことも考えたり、周りのことも考えたりすることが大切だと分かりました。わたしは、普段、おにごっこをしている時、嫌だと思っても、(仲間に) いられて、すぐやめてちがう遊びをしてしまうので、大人数でも楽しく遊びたいと思いました。だからこれからはいろいろな人といっぱい楽しく遊びたいです。



授業研究ワーク

協議1 授業に対する評価 児童の姿(意見・様子)から指導の効果を検証する

自分自身との関わりで考える	主題に迫る	多面的・多角的に捉える
【児童の反応】 ・おにごっこで誰が入ってきても入れているので続けたい。 ・自分が人によって態度を変えていないか友達に聞いてみる。 ○中心発問において、事前アンケートで出された不公平な場面ではどうするのか問い返したことで、日常生活の具体的な場面に結びつけて考えることができた。	【児童の反応】 ・公平に接するためには、相手のことだけでなく、周りの人のことも考えていきたい。 ○段階的な発問構成により、不公平な態度をとられた相手から周りへの思いへ考えが広がった。 ○構造的な板書により、思考の流れ(深まり)が可視化されていた。 *振り返りに対するコメントを共有し更に深めたい。	【児童の反応】 ・言われた人も悲しいし、周りにも嫌な思いをする。 ・人によって態度を変えているとクラスのみならず嫌われる。 ○「同じクラスの一員としてなおとの態度をどう思うのか?」「自分が不公平にされているわけじゃないのでいいのでは?」この2つの発問が、周りへの思いを引き出した。

協議2 児童の学習状況及び成長の様子についての評価 評価の視点から学習状況や成長の様子を評価する

1 成長を受け止め認め励ます個人内評価

【児童の振り返り】	評価の視点	【評価】
公平に接するためには、相手のことも考えたり、周りのことも考えたりすることが大切だと分かりました。わたしは、普段、おにごっこをしている時、嫌だと思っても、(仲間に) いられて、すぐやめてちがう遊びをしてしまうので、大人数でも楽しく遊びたいと思いました。だからこれからはいろいろな人といっぱい楽しく遊びたいです。	自分自身との関わりで考える。 ○自分たちの生活場面を振り返り、公平な態度で接するためにはどうしていけばよいか考えている。 多面的・多角的に捉える。 ○不公平な態度が与える影響について、不公平な態度をされた人だけでなく、周りの人についても考えている。	「公正、公平」の学習では、相手のことだけでなく、周りの人の気持ちも考えることが大切だということをもつことができました。また、自分の生活の中で自分自身が不公平な態度だったことを振り返り考えていました。

2 学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握

5月28日「道夫とぼく」【公正、公平、社会正義】	11月9日「なおとからのしつもん」【公正、公平、社会正義】
○「道夫とぼく」で、ぼくは友達と公平に接するには相手の気持ちを考えることと、自分がされて嫌なことは、友達にしないことが大切だと分かりました。ぼくはこれから、友達をみんなさそってあげたいです。	○今日の学習をして、公平にするためには、相手のことを考えることが分かりました。周りの人のことも考えていたので、これからも、人のことも考えていきたいです。

どのような成長の様子が見られますか?

「道夫とぼく」の学習では、公平に接するためには、不公平な態度をとった相手のことを考えることが大切だと考えていたのが、「なおとからのしつもん」の学習では、周りの人のことも考えることが大切だと考えていて、公平に対する考えの広がりが見られます。

ICT (いつも、ちょこっと、使ってみよう!) の活用

【振り返り】今日の勉強をして、友達に公平に接するためにどのように行動していきたいと思えますか?

- ①振り返りを端末に入力する。
- ②個々の振り返りを端末で共有する。
- ③互いの振り返りにコメントを入れ合う。

ICT活用の効果

- ①学びの記録の蓄積。
- ②考えの共有を瞬時に行うことができる。
- ③振り返りを読み合うことで多角的・多面的な見方への広がり期待できる。